

2025
ズバリ! 的中



古文

南山大学

入試問題と本文が一致、さらに書き下し文の
問いの傍線部箇所が全く同じ。

入試問題

2月13日実施 英米・総合政策学部
五 A66、68

河合塾

大学受験科 完成シリーズ
漢文演習
第2講 B 問二、問四

次の文章は「百子」の一節で、上石の主人が弟子を連れて舟を回した話である。よく読んで、後の設問に答
えよ。
匠石之齊。至乎曲轅。見櫟社樹。其大蔽数千
牛。絜之百围。其高臨山十仞。而後有枝。其可以
為舟者。旁十数。觀者如市。匠石不顧。遂行不輟。
弟子厭觀之。走及匠石。曰。自吾執斧斤。以隨夫
子。未嘗見材如此其美也。先生不肯視。行不輟。
何邪。曰。已矣。勿言之矣。散木也。以為舟。則
沈。以為棺槨。則速腐。以為器。則速毀。以為門戶。則
液。以為柱。則蠹。是不材之木也。無所可用。故
能若是之寿。

問二 傍線部①について、

(1) 書き下し文にせよ。

(2) わかりやすく現代語訳せよ。

問四 傍線部②について、「若是之寿」とはどういうことか。「蔽」の指す内容を明らかにしつつ、わかりやすく説明せよ。

五次に掲げる漢文を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問との関連で、取り戻し送り仮名の一部を省略してあるのは注意せよ。

匠石之齊。至於曲轅。見櫟社樹。其大蔽数千牛。絜之百围。其高臨山十仞。而後有枝。其可以為舟者。旁十数。觀者如市。匠石不顧。遂行不輟。弟子厭觀之。走及匠石。曰。自吾執斧斤。以隨夫子。未嘗見材如此其美也。先生不肯視。行不輟。何邪。曰。已矣。勿言之矣。散木也。以為舟。則沈。以為棺槨。則速腐。以為器。則速毀。以為門戶。則液。以為柱。則蠹。是不材之木也。無所可用。故能若是之寿。匠石矐。櫟社。見夢曰。女將惡乎比。

A66 傍線部②。未嘗見材如此其美也の書き下し文として最も適当と思われるものを次の中から一つ選びなさい。

- ア 未だ嘗て材を見ること此れ其の美に如かざるなり
- イ 未だ嘗て材の此く其れ美なるを見ざるなり
- ウ 未だ材を見ること此く其れ美なるを書みざるなり
- エ 未だ嘗みに材の此れ其の美の如きを見るなり

A68 傍線部①。故能若是之寿(送り仮名は省いてある)の意味として最も適当と思われるものを次の中から一つ選びなさい。

- ア 遠く長生きできる条件がそろっていたのだ
- イ ことさらに長生きできるように努めたのだ
- ウ だからあそこまで長生きできたのだ
- エ もともと長生きするだけの力があつたのだ